結願之詞一蘇生之族イ一途。夜變而日光赫々。是非二愚身一戒德。金輪御信力所爲也。但詣二神舍一輩奉一誦二此祕鍵一。昔予陪二鷲峰說法之筵一親聞二其深文一。豈不一達二其義一而已等云云。又孔雀經音義云 弘法大師歸朝之後 欲一立二眞言宗一 諸宗群集朝廷一矣。疑一卽身成佛義一。大師結一智拳印一向二南方一 面門俄開成二金色毘盧遮那一 卽便還二歸本體一。入我我入之事 卽身頓證之疑 此日釋然。然眞言瑜伽宗 祕密曼荼羅道 從二彼時一而建立矣。又云 此時諸宗學徒歸二大師一 始得二眞言一請益習學。三論道昌❶・法相源仁・華嚴道雄・天台圓澄等皆其類也。弘法大師傳云 歸朝泛舟之日發願云 我所學教法若有二感應之地一者此三鈷可一到二其處一。仍向二日本方一拋二上三鈷一 遙飛入一雲。十月歸朝云云。又云 高野山下占二入定所一。乃至 彼海上之三鈷今新在一此等云云。大師の德無量なり。其兩三を示す。かくのごとくの大德あり。いかんが❷此人を信ぜずして、かへりて阿鼻地獄に墮といはんや。答云、予も仰で信じ奉事かくのごとし。但古の人々も不可思議の德ありしかども、佛法の邪正は其にはよらず。外道が或は恆河を耳に十二年留、或大海をすひ(吸)ほし、或は日月を手ににぎり、或は釋子を牛羊となしなんどせしかども、いよいよ大慢ををこして、生死の業とこそなりしか。❸此をば天台云、邀二名利一增二見愛一とこそ釋ら

❶〔昌…皆〕15字一㊙　❷がニいかん㊙　❸りニせ㊙

れて候へ。光宅が忽に雨を下須臾に花を感ぜしをも、妙樂は感應若「此猶不」稱理と

こそかかれて候へ。❷されば天台大師❸の法華經をよみて須臾に甘雨を下、傳教大師の

三日が内に甘露の雨をふらしてをはせしも、其をもつて佛意に叶とはをほせられず。

弘法大師いかなる德まします❹とも、法華經を戲論の法と定、釋迦佛を無明邊域とかゝ

せ給へる❺御ふで（筆）は、智慧かしこからん人は用べからず。いかにいわうや、上にあ

げられて候德ども❻は不審ある事なり。弘仁九年の春天下大疫等云云。春は九十日、何

月何日ぞ。是一。又弘仁九年には大疫ありけるか。是二。又夜變而日光赫々たりと

云云。此事第一の大事なり。弘仁九年嵯峨天皇御宇なり。左史右史❼の記に載たりや。

是三。設載せたりとも信がたき事なり。成劫二十劫・住劫九劫・已上二十九劫が間に

いまだ無き天變也。夜中に日輪の出現せる事如何。又如來一代の聖教にもみへず。

未來に夜中に日輪出べしとは三皇五帝三墳五典にも載せず。佛經のごときんば、❽減

劫にこそ二日三日乃至七日は出べしとは❾見たれども、かれは書のことぞかし、❿夜

日出現せば東西北の三方は如何。設内外⓬の典に記せずとも、現に弘仁九年の春、何月、

何日、何夜の、何時に日出という。公家・諸家・叡山等の日記あるならば、すこし信ずる

❶感＝さか㊟　❷〔されば〕ー㊟　❸〔の〕ー㊟　❹ます＝そ御座す㊟　❺へる＝ふ㊟　❻〔は〕ー㊟　❼〔右史〕ー㊟　❽減＝壞㊟　❾見たれ＝見ゆれ㊟＝みへて候へ㊟　❿ぞかし＝なり㊟　⓫夜日出＝夜中日輪出㊟　⓬〔外の〕ー㊟